

信仰の浮き沈み

(マタイ14・22〜33)

地球温暖化がその原因だといわれていますが、最近の異常気象によって日本だけではなく世界各地に想定外の災害が続いています。気温の激しい上下が農作物や果樹の生育リズムを崩し、動物の生態系を脅かしています。投資家は株価の大幅なアップダウンに一喜一憂し、政治家は明日を的確に予測できず苛立っています。そして今や私たち一般市民は目に見えないウイルスに戦々恐々としていたりといった現況です。そのような環境にあつて当然私達の信仰が試されます。毎日に信仰の揺れを体験するでしょう。聖書に登場する偉大な信仰の巨人ですら霊的スランプに陥り、神の叱責を受けました。アブラハム、モーセ、エリヤらも例外ではありません。今日はその中の一人ペテロの体験から「信仰の浮き沈み」について一考することに致します。

聖書テキストに記されている出来事を時系列に見ると、5つのパンと2匹の魚で5千人を養うという奇跡のあと、主イエスは群衆を帰らせ、弟子達を舟に乗せ、一人で山に引きこもり祈られました。一方弟子達は湖に乗り出したのですが強風に悩まされて思うように舟を操ることが出来ませんでした。そ

の時主が波の上を歩いて舟に近づいてこられたのです。弟子達はそれを見て「あれは幽霊だ」と叫び、おびえました。しかし主イエスは「しつかりしなさい。わたしだ。恐れることはない。」と弟子達をたしなめられたのです。そこから今日のテーマである主イエスとペテロのやり取りがはじまります。一連の出来事から次のポイントについて考察しましょう。

一、ペテロが水の上を歩いた要因

荒れる波の上を歩いてこられたのは、幽霊ではなく真正銘主イエスなのだと気づいたペテロは、一旦常識を停止させて、「主よ、あなたでしたら、私に命じて、水の上を歩いてあなたのところに行かせてください。」(28節)と叫びました。ここで注意しなければならぬのは、「主よ、あなたでしたら、私も水の上を歩かせてください。」と要求したのではないということです。「主よ、あなたでしたら、私に命じて、水の上を歩いてあなたのところに行かせてください。」と願いました。この要請は信仰の軸足を自分ではなく主イエスに置いたという証しです。彼は主イエスの応答を待ちました。そして、「来なさい！」という招きを聴き分けたのです。強風の中にも関わらず主イエスの「来なさい！」をはっきり聴き取りました。そして彼は水の上を何歩か歩きました。い

いえ、歩いたのは水の上ではなく、主イエスのことばの上を歩いたのです。主イエスのことばに呼応してペテロは常識を覆す行動に出ました。この出来事は奇跡を求めるのか、奇跡の主を求めるのかの大きな違いを示唆しています。ところが…

二、水に沈んだ要因

ペテロは「強風を見て怖くなり、沈みかけた」(30節)のです。水に沈んだ要因は二つ。一つは「来なさい！」と呼びかけてくださった主イエスから目を離れたから、もう一つは、自分の環境に目を奪われたからです。

主イエスとのやり取りに集中している間、ペテロは風を意識しなかったのではないのでしょうか。彼はその集中力を失いました。強風のざわめき、荒海の轟きに動転し、主イエスから目を逸らした瞬間、波に沈みました。常識の次元に逆戻りしたのです。つまり信仰の軸足をずらしてしまいました。この事例から世の嵐に打ち勝つか溺れるかの極めどころが浮かび上がってきます。

三、二つの要因から学ぶこと

ペテロの信仰姿勢は私たちに「水の上を歩く」(状況に溺れない)信仰をもつヒントを与えてくれます。まずみ言葉に根ざした行動信仰をもつこと、そして主キリストに焦点をおく瞑想信仰

が必要だということ。主よ、あなたでしたら、私に命じて、水の上を歩いてあなたのところに行かせてください」という祈願のベースに「命じて下されば、水の上を歩いて、主の身許に行かせていただきます」という行動信仰が息吹いていたに違いありません。と同時に一時的でも嵐のざわめきが消えるという瞑想信仰があつたのではないかと思えます。つまり霊的集中力を駆使してこの世的なものを自分の意識から遮断した信仰ということ。試練という嵐に打ち勝つ秘訣をペテロの事例から学ぶことが出来ます。しかし現実には試練に溺れそうになることがあります。その時にはなりふり構わず、「主よ、助けて下さい」と叫べば良いのです。主は必ず手を差し伸べてくださいます。私たちには「試練とともに脱出の道を備えてくださる」(1コリント10・13)主がすぐ近くにおられるのです。だから、

「信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをもとせせずに十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。あなたがたは、罪人たちの、ご自分に対するこのような反抗を耐え忍ばれた方のことを考えなさい。あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないようにするためにです。」(ヘブル12・2、3)。